

# 少年の主張 平成29年度 全道大会

## 発表作品集



公益財団法人 北海道青少年育成協会  
北 海 道  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

# 目 次

## はじめに

公益財団法人北海道青少年育成協会会長 伊藤 邦宏 .....	1
--------------------------------	---

## 平成29年度「少年の主張」全道大会

.....	2
-------	---

## 作品集

### 【最優秀賞】

支える側への配慮も	阿部はるか（白糠町立白糠中学校3年） .....	4
-----------	--------------------------	---

### 【優秀賞】

左耳が教えてくれたこと	渡部 胡桃（芦別市立啓成中学校3年） .....	5
-------------	--------------------------	---

私が髪を切った理由	坂本安侑子（新ひだか町立静内第三中学校2年） ..	6
-----------	---------------------------	---

誰かのために笑顔を生む	若林 千夏（旭川市立神居東中学校3年） .....	7
-------------	---------------------------	---

### 【奨励賞】（発表順）

大人になるということ	佐々木理音（札幌市立琴似中学校3年） .....	8
------------	--------------------------	---

生き続けるということ	片桐 望羽（木古内町立木古内中学校3年） .....	9
------------	----------------------------	---

救うのか、傷付けるのか	谷口 萌香（安平町立追分中学校3年） .....	10
-------------	--------------------------	----

「思いやりは忘れない」	藤田 健太（江差町立江差中学校2年） .....	11
-------------	--------------------------	----

あたりまえ	其山香那芽（北見市立瑞穂中学校3年） .....	12
-------	--------------------------	----

本当の自分	大河内結凧（天塩町立天塩中学校3年） .....	13
-------	--------------------------	----

絆の大切さ	井下田晴香（千歳市立千歳中学校3年） .....	14
-------	--------------------------	----

「幸せ」な人になるために	佐野 綾花（別海町立別海中央中学校3年） .....	15
--------------	----------------------------	----

真の国際人	グライナー・オリビア・咲（京極町立京極中学校3年） .....	16
-------	---------------------------------	----

本当の「ありがとう」～尊厳を大切に～	小島 妃香（札幌市立平岸中学校2年） .....	17
--------------------	--------------------------	----

「努力」って、何？	清水 紹平（稚内市立潮見が丘中学校3年） .....	18
-----------	----------------------------	----

現実（リアル）	山本 如月（陸別町立陸別中学校3年） .....	19
---------	--------------------------	----

## 講 評

審査員長 鎌田 浩志（北海道中学校長会幹事/新十津川町立新十津川中学校長） .....	20
---	----

## 参 考

平成29年度「第39回少年の主張全国大会」～わたしの主張2017～内閣総理大臣賞受賞作品 ..	21
---	----

## 資 料

大会のねらい／大会のあらまし／審査員 .....	22
--------------------------	----

平成29年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会の開催状況 .....	23
---------------------------------------	----

平成29年度少年の主張実施要領 .....	24
-----------------------	----

「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並びに優秀賞受賞者名簿 .....	26
-------------------------------------	----

## はじめに

「少年の主張」全道大会は、昭和54年の国際児童年を記念して始められ、今回で、39回目を迎えました。ここに作品集を発行し、皆様にご覧いただけることを大変うれしく思います。

この大会は、人格を形成する上で重要な時期にあたる中学生が、日常生活を送る中で感じ、考えていることや未来への夢、希望などを中学生自身の言葉でまとめ、それを広く発表する機会を提供することにより、同世代の中学生に周囲の人々や社会との関わりについて、より深く考えていただき、社会の一員として自覚していただく契機とすること、また、道民の皆様が中学生の考え方、感じ方、意見等に直接触れることにより、青少年健全育成に対する理解と関心を深めていただくことを目的として開催しています。

今、少子高齢化、国際化、情報化等が急速に進展する中、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。そのような中で、彼らの主張に真摯に耳を傾けることは、私たち大人の責任でもあると考えています。

これからの北海道を担う、希望に満ちあふれた輝かしい存在である青少年の皆さんには、自分たちの意見を発表することを通じて、広い視野と柔軟な発想を育むこと、論理的に物事を考えること、自分の主張を他の人に正しく伝える力などを身につけて欲しいと願っています。

今年は、道内349校から38,092名の方が応募され、地区大会を経て、16名の方が全道大会に進まれました。この作品集は、皆さんの生き生きとした主張を掲載したものです。

この作品集を一人でも多くの方に読んでいただくことを願いつつ、本大会を開催するに当たり、ご協力いただいた関係の皆様にご心からお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

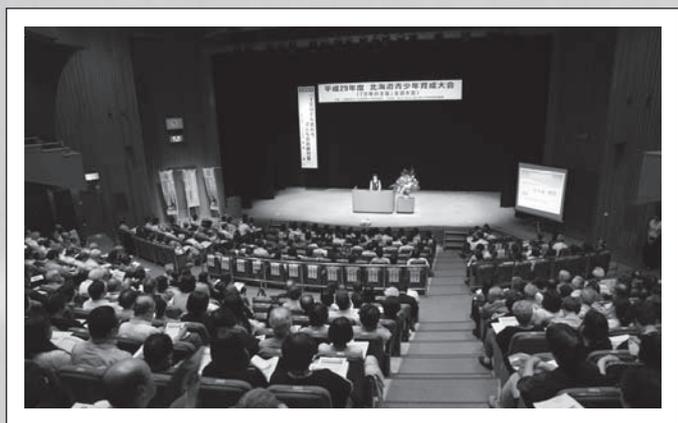
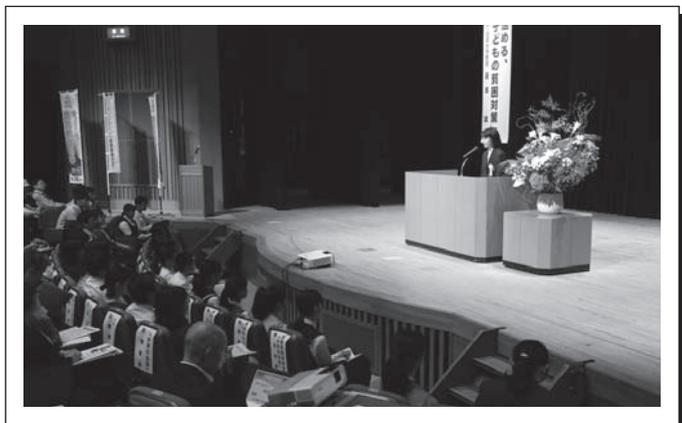
平成29年12月

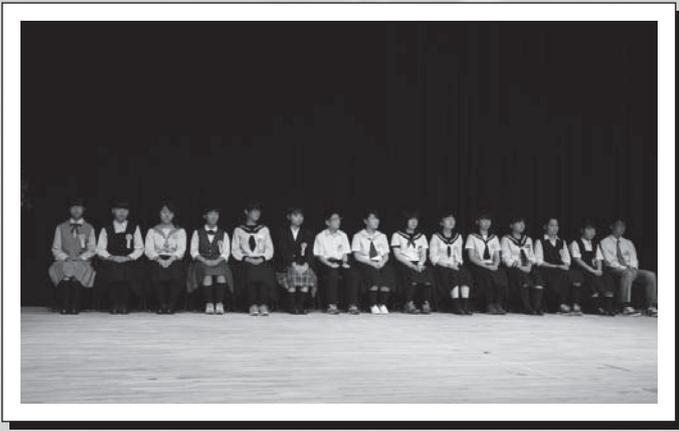
公益財団法人北海道青少年育成協会

会 長 伊藤 邦宏

# 平成29年度「少年の主張」全道大会

平成29年9月8日（金）札幌市 道民活動センター（かでの2・7）







最優秀賞

北海道知事賞

## 支える側への配慮も

しらぬか 白糠町立白糠中学校3年

あへ  
阿部 はるか

「正直キツかった。」そう呟いたのは、5年前まで介護職員として働いていた父だった。

近年、社会的に問題視されている、介護職員による認知症利用者への傷害事件。私はそんな報道を耳にする度、加害者への断ち切れない怒りと、何故そのような行為に及んでしまったのだろうという強い疑念に駆られた。しかし私は父の話聞き、この残酷な事件の背景にある介護施設のとても悲しい事実を知った。

父の話によると、父は認知棟と言う、認知症利用者のみが利用する階で働いていた。認知症の利用者の中には、トイレなども自分の力で行く事が出来ず、漏らしてしまう方が多くいたらしい。それを父が処理しようとする、ひっかく、つねるなどの暴行をされていたと言う。それでも毎日、笑顔で利用者に接しなければならない。そんな日々への精神的負担は計り知れなかったことだろう。また、度々耳にする、老々介護において子が親を殺害するという悲惨な事件も、このような大きな精神的負担が引き起こしたものだと思ふ。

だからと言って、介護者による傷害事件が許されていていい訳では絶対でない。

認知症の方も、なりたくて認知症になったのではない。私自身、高齢者の方との交流を通し、その痛みを目の当たりにした経験がある。中学2年の冬、町の介護施設へボランティアに行った時のことだ。私はある一人のお婆ちゃんと接する機会が多くあった。そのお婆ちゃんも認知症で、上手く言葉を発する事が出来なかった。その為、私が何度話しかけても返答は無く、「仕方が無いことだ。」と分かっているはずなのに、少し寂しい気持ちになっていった。しかしお婆ちゃんを車イスに乗せ、散歩へ行った時のこと。お婆ちゃんが私に手招きした。「どうしたの？」私は視線を合わせた。するとお婆ちゃんは、私の手のひらに何かを乗せようとした。けれどそ

こには何も無く、私はそれが何を意味しているのか分からなかった。しかし後になり、お婆ちゃんは私に「ありがとう。」とお駄賃をあげようとしていたと知った。その時私は、「どうして気付いてあげられなかったのだろう。」という自己嫌悪を感じると同時に、自分の思いを上手く相手に伝えることの出来ない、認知症の痛みを痛感した。

しかし世間では、介護職員による傷害事件や、数値化された見かけだけの利用者状況ばかりが問題視されている。けれどそれでは、この国の介護施設は何も良くなる。私はこんな辛い現状を変える必要があると思う。

それを実現するには、今よりもっと介護職の方の精神的負担の軽減に努め、「この職について良かった。」「利用者の方に出会えて良かった。」心からそう思えるような環境づくりをする事が必要だと思う。その為私に出来る事。それは、この現在の介護施設の事実を、多くの人に伝えることだと思ふ。

皆さんは知っているだろうか。必死で寄り添おうとしても、心身共に傷つけられる人の苦悩を。皆さんは知っているだろうか。それでも毎日笑顔で支え続けている人の痛みを。そして皆さんは想像出来るだろうか。自分の想いを相手に伝える事の出来ない認知症の苦しみを。私はそんな悲しい事実を知った。だから皆さんに伝える。この国には、苦しんでいる介護者が、苦しんでいる認知症の方が沢山いる。そんな人々にもっと向き合うべきだ。

少子高齢化が急速に進む現代、介護施設を利用する人は、増加し続けるだろう。そんな中で、支えられる側への理解は勿論、支える側への配慮も、本当に大切な事だと、私は強く、強く思った。



優秀賞

北海道教育委員会教育長賞

## 左耳が教えてくれたこと

あしへつ けいせい  
芦別市立啓成中学校3年

わたなべ くるみ  
渡部 胡桃

私の左耳は、何も聞くことができません。この耳も手術によって作られました。私は、左耳が聞こえない「小耳症」という障がいを持って生まれました。この障がいは、六千人に一人の確率で発生する可能性がある先天性のもので、生まれつき耳が小さかったり、無かったりします。耳の穴がふさがっていることがほとんどで、聴力ももちろんありません。原因も分かっていませんし、完全な治療法もありません。私のように手術によって耳だけを作ることはできますが、それには長い時間がかかります。

今のような左耳がなかった頃、クラスの人から「お前の耳は変だ」「小さい」と悪口を言われていました。髪を伸ばし、耳を隠すことで、自分の心も隠そうとしていました。ですが、隠すことで余計に視線が気になり、息苦しさを覚えました。悪口を言われる度に、傷つき、なぜ自分の耳はみんなと違うのだろう、なぜ聞こえないのだろうと母に尋ねました。母は、泣きながら申し訳なきように「ごめんね…」と言いました。今思えば、そうやって私から聞かれる度に、母は自分のことを責めていたのだと思います。今なら、母に聞いても仕方のないことだとわかるのですが、あの頃の私はそうやって母に言わずにはいられないほど追いつめられていたのだと思います。しかし、母はそんな私の気持ちを正面から受け止め、手術を勧めてくれました。

小学五、六年の冬休み、二度の正月は病院で過ごすことになりました。手術を担当して下さった札幌医大の四ッ柳先生は、小耳症の治療において大変有名な方です。他の病院では治療できないと断られていた私の耳。しかし、先生は熱心に診察を行ってくれ、心をときほぐすように言葉をかけて下さいました。最初の手術は、胸の奥にある肋軟骨を取り出して形成し、左耳のところに埋め込むという難しいものでした。

取り出したところには五センチほどの傷が残りました。二度目は、前回埋め込んだ耳を起し、その裏側に自分の皮フを移植するというものでした。皮フを取ったところには手のひらくらいの傷が残っています。この二度の手術を経て、外見的にはみなさんと同じような耳が出来上がりました。包帯をほどいて鏡を見た瞬間、そこに本来あるべきものがあるということの素晴らしさにふるえ、私は泣き続けました。人生で一番嬉しかったです。先生と出会い、耳の治療をしてもらえていなかったら、今も私は色々なものを隠しながら生きていたかもしれません。

初めての手術の時、耳が手に入るという喜びよりも、不安の方が大きかったのを覚えています。そんな私を支えてくれたのは、やはり母でした。手術に向かう時はもちろん、入院中もずっと「お母さんがいるからね」と励ましてくれました。本当に感謝しています。そして、もう一人、私を支えてくれた人がいます。それは、看護師さんです。不慣れなことばかりの入院生活をサポートしてくれるとともに、「大丈夫」と何度も声をかけてくれ不安な気持ちを和らげてくれました。きっと私が見ていないところでもたくさん仕事をしているのに、疲れた顔を見せずに接してくれる看護師さんに、感謝するとともに、いつしか私は憧れの心を抱くようになりました。

今の私の将来の夢は、看護師になることです。あの日の看護師さんのように、私も誰かの不安や痛みを和らげる存在になりたいです。

「小耳症」という障がいは、私にとって嫌なものでしかありませんでしたが、この障がいを持って生まれたからこそ、今の自分があり、こうやって将来のことも考えられるのだと思います。私は、私にしかできないことを見つけ、精一杯取り組み、夢に向かって歩んで行こうと思います。それに気づかせてくれたこの左耳は、私の大切な宝であり個性です。



## 優 秀 賞

北海道PTA連合会会長賞

### 私が髪を切った理由

しん しずないだいさん  
新ひだか町立静内第三中学校2年

さかもと あゆこ  
坂本 安侑子

ずっと伸ばしてきた髪を、昨年、34センチメートル切りました。それは、失恋したからでも、お洒落のためでもありません。背中まであった髪は、肩より短くなりました。

小さい頃からいつもしていたポニーテールは出来なくなりました。

私が髪を切ろうと思ったのは、あるテレビ番組を見たことがきっかけでした。その番組では、病気などで髪の毛が生えなくなってしまった子どもたちに、ウィッグやカツラを無償で贈る活動をしている人達のことを紹介していました。ウィッグをもらった小さな女の子は、うれしそうに、やさしく、くして髪をとかしていました。その姿を見て、私も思いました。（私も自分の髪を贈りたい！）

私はまず、この活動について調べてみることにしました。分ったことは一つのウィッグやカツラを作るのに、約20人から30人分の、さらに31センチメートル以上の髪の毛が必要だということ。そして、ウィッグを必要としている18歳以下の子どもたちが、まだ百人以上いるということでした。

私は、髪があるのは当たり前だと思っていました。けれど、当たり前ではないことに気づきました。例えば、病気で髪が生えなくなり、自慢の髪がなくなってしまった女の子が番組で紹介されていました。人工毛のウィッグだと目立ってしまうので、人毛のウィッグが欲しいと言っていました。受け取ったのは、欲しかったロングウィッグではないけれど、とてもうれしそうな顔をして笑っていたのが印象に残っています。

髪がないということは、「前髪切りすぎた」、「髪の毛はねちゃった」という次元の悩みではないのです。

皆さんは自分の髪が無くなったら…ということ考えたことはあるでしょうか。きっと、子

ども達にとっては大きな悩みなのです。

すぐにでも、髪を贈ろうとしましたが、身近な所に活動に協賛している美容室がありません。私は、自宅で髪を測って切らなければなりません。定規で31センチメートル測り、ゴムで6つの束にしぼってもらい、一つずつ切ってもらいました。このように、家族の協力で、無事に髪を贈ることができました。しかし、鏡を見ると、髪の毛がガタガタになっていました。

自分で切ると、そうなることは、切る前からわかっていました。しかし、テレビで見た小さな女の子のうれしそうな姿を思い浮かべ、思い切って切ることになりました。

その後、髪を受け取ったと、ボランティア団体からお礼の葉書が届きました。その葉書には、「あなたからの善意は、髪の毛のことで悩みを抱えている誰かの『普通の生活』を取り戻すため、大切に役立てられます。」と書いてありました。自分の髪がちゃんと人の役に立ったのです。そのことが嬉しくてたまりませんでした。

たくさん人の思いが詰まって、一つのウィッグやカツラは出来ています。自分の髪もその中に入っていると思うと、とても誇りに思います。

切ってから約一年がたち、髪もしばれるようになりました。今は番組の女の子が欲しがっていたロングウィッグを作れる長さを目指しています。そのためには51センチメートル以上の長さが必要です。今はまだ18センチメートルです。あと3、4年はかかるでしょう。時間がかかっても、髪がガタガタになっても、これが私のボランティアです。

ボランティアとは、特別なことをすることではありません。その人が、その人の生活の中で、できることをやれば良いのです。だから、誰にだってできます。これからも、私にできるこのボランティアを続けていきます。



# 優秀賞

公益財団法人北海道青少年育成協会会長賞

## 誰かのために笑顔を生む

あさひかわ かむ いひがし  
旭川市立神居東中学校3年

わかばやし ちなつ  
若林 千夏

旭川市では毎年6月に常磐公園で護国神社祭というイベントが催されています。私は中学1年生の頃、友達とこのお祭りを楽しんでいました。すると突然、前を歩いていた人がペットボトルを投げ捨てました。あれ？私は動揺して友達と目を見合わせました。ポイ捨てはダメとわかってはいても注意する勇気も拾う正義感もなく私はその場を後にしました。

帰宅後、父が私にこう言いました。

「お祭り楽しんだかい。明日そのゴミ拾いに行くから早起きをしなさい。」

それを聞いた私は、なんで誰かのゴミを早起きまでして拾わなきゃいけないの？という思いでいっぱいでした。

翌朝、嫌々公園へ行った私は辺り一面ゴミであふれている光景に言葉を失いました。私は嫌だった気持ちを忘れ黙々とゴミ拾いをしました。途中で会った散歩をしている方に

「ゴミ拾いなんて偉いね。ありがとう。」

と言われ清々しくなりました。最初は嫌々だったけれど、ありがとうと笑顔で言われると私も笑顔になり、終わった時にはやって良かったと思えるようになりました。

それから私は、学校でのボランティアにも参加しました。赤い羽根募金やクリスマス会でのケーキ配り、餅つき会の手伝い。どれも楽ではありませんでしたが、多くの笑顔にやりがいを感じました。

私はこのボランティアでの経験を普段の生活にも生かしました。学校で移動教室の時に電気を消す、窓を閉める。部活に早めに行き用具の準備をする。ささいな事ですが、ボランティアをする前よりも色々な事に気がつく事ができるようになりました。また、これからはボランティアで得た気がつくというのを伸ばせるよう生活したいと思います。困っている人に声をかけたり、場に応じた行動をし

たりして周りの人が笑顔になるようにしたいです。小さな気づきからボランティアで培った笑顔の輪を広げて行きたいと思います。

ボランティアは、誰かのために活動して笑顔を生むものです。実際にやると、人の優しさや笑顔を間近に見ることや新たな発見ができる素敵な活動であることに気がつきました。ボランティアは、した人もされた人もその垣根を越えて笑顔になることのできるものなのです。

さて、災害が多いことで知られる日本。2011年の東日本大震災、昨年発生した熊本地震、また記憶に新しい九州北部豪雨など。その度に活躍するのがボランティアの方々です。被災家屋のがれきの除去や清掃、救援物資の仕分け作業など数多くの場面で活動している姿を私はニュースなどで目にしました。私はそんな方々を見て人と人とのつながりの深さ、そして人の優しさに感動しました。それと同時に、私も「誰かのために心から思って、生きていけるような人になりたい」と強く感じました。

2020年には東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。ここでも様々なボランティアが必要とされるでしょう。日本人のおもてなしの心を生かした優しさあふれる対応で笑顔の輪が、日本から世界中へと広がってほしいと思います。

「誰かのために思う」それこそが、これからの未来に笑顔をもたらしに行くのだと、私は思っています。



## 奨励賞

### 大人になるということ

さつほろ ことに  
札幌市立琴似中学校3年

さ さ き り お  
佐々木 理音

皆さんは6年前の東日本大震災を覚えていますか。大きな被害をもたらした震災。震災の中から私はひとつ、学んだことがあります。

当時私は小学校二年生で、宮城県に住んでいました。地震が起きたのは友達と学校から帰る途中のことでした。しゃがんでいても体がぐらつくほどの揺れの中で、道路はまるで生きているようにうねり、ひび割れました。スローモーションになったように感じるほどの長い揺れが過ぎた後には、私たちが使ういつもの通学路は変わり果てていたのです。信号機は停電により機能せず、でこぼこになった道を車が連なってゆっくりと通っていきました。こちらを気にもせず、先を急ぐ車を前に、私たちは交差点も渡れず、途方に暮れてしまいました。

その時、遠くから一人のおばさんが歩いてきて、車を止めて、私たちを渡らせてくださったのです。おばさんは私たちに「大丈夫よ、お家の方が心配してるから。気をつけて帰なさい。」と言って、途中まで送り届けてくださいました。子どもだけ、ということの頼りなさ、無力さを実感していた中で、そんな言葉を聞き、心からほっとしたのを覚えています。今まで特に何も思っていなかった大人の存在がこれほどありがたいものだとは思いませんでした。おばさんのおかげで無事、家に帰ることができたのです。

しかし、本当に厳しいのはここからでした。幸い、自宅は食器や本が全て倒れているだけの状態で住むことができましたが、電気や水道も止まり、暗い中ランタンの明かりの中で食パンを食べた夜、ラジオから淡々と流れる被害状況のニュースに、非現実さを感じながらもとても恐ろしいことが起きたのだと不安に思ったのを覚えています。

父は病院に勤めていて、家にはほとんど帰ってこられなくなりました。停電のせいで医療機器が止まらないよう、自家発電を病院でして、その燃料となる重油を確保し、支援物資を届けるため、車で様々な場所を飛びまわり、油まみれになっていたそうです。

母は家にいることのできない父の代わりに私たちを守ってくれました。道路が分断され物流が滞り、店頭から

物が消えました。母は個数制限や人数制限のかかったスーパーの行列に何時間も並び、食べ物や飲み水を買ってきてくれました。また、毎日何回も訪れる予震で眠れない私を母はずっと抱きしめていてくれました。とても苦しかったはずなのに嫌な顔をひとつせずに私たちに明るく接してくれたおかげで日々の不安は徐々に無くなっていきました。

数日で電気がつき、水道やガスも復旧され、波うっていた道路も元通りに補修されました。スーパーにも生鮮食料品が並ぶようになりました。たくさんの大人の力によって私たちの生活は少しずつ元の姿に近づいていきました。

私の震災の日々、そこにはいつも私たち子どもや地域を守ってくれた大人の姿がありました。小学校二年生だった私が東日本大震災から学んだこと、それは大人としてのあるべき姿です。

今、私は中学校で生徒会長を務めています。生徒の代表であるということの大変さや重みを感じ、時にどう振る舞えば良いのかわからなくなることもあります。しかし、いつも私の心の奥にはあのとき職業や立場といった社会的地位など関係なく、一人の人間として自分を、他人を守り、互いに支え合った大人たちの姿があって、それが「私もただ一人の生徒として、この学校をより良くするためにどうすれば良いのか、どう行動すれば良いのか考えれば良いのだ」と気づかせてくれます。

私にはまだ将来こんな職業につきたいという決意はありませんが、どんな仕事も誰かのためにあって、それらが重なり合って社会ができているのだと思います。だから私は将来どんな職業についても、人や社会の役に立つ本当の大人になりたいです。そしてあのとき助けてくださったおばさんや家族を守ってくれた父や母のような大人に社会貢献という形で恩返しをして、またそんな大人の姿を次の世代につなげていきたいです。

そのためにも私は勉強や生徒会活動など、今、私にできることを一生懸命がんばっていきたいと思います。そしてこれからも東日本大震災で胸に刻まれた記憶を、体験を、おりにふれ振り返ることで私らしく生きていきます。



## 奨励賞

### 生き続けるということ

きこない きこない  
木古内町立木古内中学校3年

かたぎり みう  
片桐 望羽

昨年の4月3日。私の曾祖母がこの世を去った。遺体の納まった棺が、お経とともに火葬される時、私は思った。曾祖母が死んだことによって、彼女の中で生きている私も死んだのだ。一緒にいた時間。重ねた思い出。私が忘れてしまったことだってたくさん、たくさんあるだろう。生まれて間もない時のことなどは、その場にいた今生きている大人たちによって聞かされることもあるだろうが、それらが死者の口から語られることは、もう二度とない。愛していればいるほどに、その人のことを思う気持ちが深まっていく。それが哀しさだ。

もっと、もっと話をしておけばよかった。もっとずっと一緒にいればよかった。優しい声。しわだらけのあったかい手。穏やかな眼差し。今14歳の私がこれからも生きていくうえで、曾祖母のことを忘れないためにも。私が思い出せなくなったら、私の中で生き続けるおばあちゃんが本当に死んでしまうのだから。

そんな後悔や哀しさでいっぱいのが、自分の思いを見直すきっかけになった言葉がある。それは、国語の古文の問題集の中に、私が見つけてくれるのを待っているかのように息をひそめていた。そして、私が曾祖母の最期に伝えることができなかつた一言であった。

「有り難し」

この古語の語源は、「有ることが難しい」ということにある。転じて、「めったにない」という意味になったのだ。昔の人たちは、奇跡をおこしてくれた神様に対して「有り難し」と祈ったそう。その後、「めったにない」ことを感謝する「ありがとう」という言葉になった。

存在を感謝する言葉「ありがとう」。皆さんは、一体どんな場面で使っているだろうか。

改まって言うには少し心構えてしまうし、どこか照れくさい。親しければ親しいほど、省略してしまうことも多いだろう。けれども、言われて嫌な人などいない素敵な言葉。不思議なパワーがある言葉だと私は思う。自分が周りに迷惑をかけてしまったときや、誰かの手を借りるような場面でも、「すみません」で終わるのではなく、そこに「ありがとう」をくわえるだけで、人間関係は確実に変わっていく。それは、自分の世界が少しずつプラスになっていくことを意味している。

感謝や愛情は言葉にして伝えた方がよい。そう考える人が多かったからこそ、「ありがとう」は、古代から今日まで残っているのだろう。言葉が超えてきた時間を思えば、それが人の営みにどれほど大切なのが本当に実感できる。だから、皆さんもどんどん使っていく方がいい。

私にとっては、曾祖母の存在がまさに「ありがとう」だった。だから、私が誰かに「ありがとう」を伝えるたびに、そこにおばあちゃんが生きているのだと今は考えられるようになってきている。亡くなった人を記憶の中に留めておくだけでは、いつかは忘れるのだろう。けれども、日常の中で「ありがとう」を誰かに伝えることで、私の中の曾祖母を生かし続けながら、私自身の世界を明るくすることだってできるのだ。

おばあちゃん、ありがとう。

そして、今ここにいる私の主張を聴いて下さったみなさん、ありがとうございました。



## 奨励賞

### 救うのか、傷付けるのか

あびら おいわけ  
安平町立追分中学校3年

たにぐち もえか  
谷口 萌香

「言葉」

私たちはこれを使わなければ、生きていくことはできないでしょう。その言葉をどう使うのか、皆さんは考えたことがありますか。

私は、言葉について深く考えるきっかけがありました。

小学生の頃のことです。私は学校に新しい筆箱を持っていきました。それは母の友人が作ってくれたもので、今でも使っているお気に入りの筆箱です。それを見て、ある男の子が言いました。

「ださっ。」  
と。

その男の子にとっては何気ない一言だったのでしょうか。きっと特に深い意味は無く、ただ思ったことを言っただけだったのだと思います。人を困らせてやろうとか、傷つけてやろうと思って言った訳ではありません。しかし私はその言葉を言われ、ショックを受けました。私が筆箱を大切に思っている気持ちまで否定されたように感じたのです。同時に悔しきや怒りが湧いてきました。軽い気持ちで言った、たった一言で、人を苦しめ、傷つけることができるのです。当時の私は言い返すことも、軽く受け流すこともできず、ただただ悔しい思いを抱えていました。

しかしそこへ、クラスの友達に来て、こう言ってくれました。

「かわいいじゃん。」  
と。

先程の男の子と同じ、たった一言。ですが、この言葉のお陰で、悔しきや怒りが一瞬にして消えました。そして先程とは打って変わって、あたたかい気持ちになったのです。

この二人の言葉から、私は『言葉には力がある』と思いました。言葉は「ださい」などのように、人を苦しめたり、傷つけたりすることが

できます。しかしそれと反対に、人を救ったり、慰めたりできる力も持っています。

人の気持ちを変化させるには、言葉一つで十分なのです。

私は言葉で傷ついた経験があります。ですから、そのようなことで傷つく人をなくしたいです。

しかし最近、「LINEトラブル」という問題をよく耳にします。LINE上の会話の中で小さな食い違いが起き、いじめに発展し、更には自ら命を絶ってしまう人もいます。ニュースを聞いた時私は、とても悲しくなります。なぜ防げなかったのか、なぜそこまで追い詰められてしまったのか、とやるせない気持ちでいっぱいになります。

私は言葉は使い方によって、人を深く傷つける武器になってしまうと思います。言葉によって負った心の傷は、時間が経ただけで癒えるものではありません。それだけ言葉は重く、強い力を持っているのです。

私たちが生活する上で、直接会って話すときも、ネット上で会話するときも、どちらにしても言葉は必要不可欠です。皆さんはその言葉、一つ一つの重みについて考えたことはありますか。一度言ってしまった言葉はもう取り消せません。冗談で、思いつきで言って人を傷つけてしまったからでは遅いのです。

私は言葉で傷つけられました。ですが、救われもしました。たった一言で、救われる命があるかもしれません。人を救うことは、実は難しいことなのだと思います。言葉の持つ力をどう使うのか、一度立ち止まって考えてください。

人を救うのか、傷つけるのか。  
あなたはどちらを選びますか。



## 奨励賞

### 「思いやりは忘れない」

えさし えさし  
江差町立江差中学校2年

ふじ た けん た  
藤田 健太

今日も青い軽トラックが走っていく。

夕闇の中へだんだんと消えていくテールランプを見ながら僕は胸の奥からじんわりと何かがかみ上げてくる感覚に襲われる。「じいちゃん明日も会いに来て」ぼくのじいちゃんは、口数が少ないけれど、優しい。兼業農家で米やいも、野菜などを作っている。休みなどない。畑にいたくなくても、冬に備えてよく薪割りをしている。とにかく、いつ見ても働いている。そんなじいちゃんも、ぼく達「孫」が遊びに行った時だけは、仕事の手を止め、家に上がって来る。それほど、僕達のことをかわいがってくれていた。

ある朝、じいちゃんはいつものように山へ仕事に行った。その日は、長年かけて育てた木を切り倒す作業だった。「危ない」大木がじいちゃんを目掛けて倒れていったそうだ。じいちゃんは木の下敷きになってしまった。作業中の事故である。

すぐに救急車で病院に運ばれた。検査の結果、脊髄を損傷していて「このままだと車イス生活になる」と言われた。その日のうちに、大きい病院に移り手術。背骨に沿って金具を入れピンで固定し、神経が繋がるのを待った。治る可能性はほとんどないとも言われた。「もう歩くことはできないのか…」とショックを受けた。

でも、奇跡が起きた。お医者さんも驚く回復力で脊髄の神経が繋がったのだ。じいちゃんは五人兄弟の長男で小さい頃から農家の手伝いをし、今まで働き続け、体を鍛えていたからだ。積み重ねた努力の賜物だと思った。今では自分で車を運転できる所まで回復した。

みんなは「それだけでも十分だ」と思ったが、じいちゃんは違った。自分の体が思い通りに動かないイライラがじいちゃんの性格を少しずつ「怒りん坊」へと変えていった。今までと違って食べ物をこぼしたり、兄弟同士で少し騒いだりしただけでも、叱られるようになった。いつ

もピリピリしているように見えた。僕はだんだんすぐ怒るじいちゃんを煙たく感じるようになっていった。

小言を聞くのにうんざりした僕は、だんだんじいちゃんと距離を置くようになった。今思うとそんな年頃だったのかもしれない。そんな無駄な時間も終わりを告げる。

中学校へ入学して、部活の遠征でクタクタになって帰ってきた僕を、じいちゃんはねぎらってくれた。「腹減ったが?」「早く寝れ〜」昔は優しくかったじいちゃんを思い出した。

五月には必ず鯉のぼりを上げてくれた、トラクターに乗せて喜ばせてくれた、苺やぶどう、くりの木を植えてその収穫を楽しませてくれた。こんなにたくさんの優しさをもらいながらじいちゃんのことを嫌になっていた自分に腹が立つ。

事故のことはとても悲しいことだったと思う。でも、今まで朝から晩まで働きすぎたじいちゃんに神様が「これからはゆっくりと人生を過ごして長生きしなさい」と言っている気がした。

今度はぼくがじいちゃんに優しくする番だ。春にはハウスかけ、夏は畑の水やり、秋には芋掘り、冬は雪かきなどたくさん手伝いたい。体が不自由になってからあまり外出したたがらないけれど、ぼく達と一緒にだと外出や旅行も行くと言ってくれるのでたくさん誘ってじいちゃん的笑顔を増やしたいと思う。

このような経験から困っている人がいたら自分が最初に助けようと心に決めた。そのためには日常生活の中で周りをよく見て困っている人に気づくこと、そして気づいたら勇気を出して声をかけること、それを実行したいと思う。

病気やけがで自分もいつそちらの立場になるか分からない。そのことを決して忘れてはいけない。みなさんも困っている人がいたら声をかけてみて下さい。「どうしましたか、何かぼくに出来ることはありますか」



## 奨励賞

### あたりまえ

きたみ みずほ  
北見市立瑞穂中学校3年

そのやま かなめ  
其山 香那芽

当たり前の生活が、ある日突然、できなくなつたとしたら…。

私達にとっての「あたりまえ」は、一方では「あたりまえ」ではない。そんなことを考えたことは、ありますか。

私は、考えたことがありませんでした。水を手に入れるのに、体を張って苦労しないといけないなんて。学校に行きたいのに、いけないなんて。病原菌のない環境を努力してつくっていかねばならないなんて。

南アジアの国、東ティモールには、水道がない地域がたくさんあります。生活に必要な水は、川から汲んで来なければなりません。険しい山道を、数kmも大瓶を持って、汲みに行くのは、子供たちの毎日の仕事だそうです。家族が生活する為の水は大切に使っても、たくさんの量が必要です。水がないと、生活ができません。だから、学校に通うことよりも、家族のために水を汲みに行くことが優先されます。

ちょっと蛇口をひねれば、とめどなく流れ出る水。私にとって、水は「あたりまえ」に手に入る物です。東ティモールのことを知って、正直、驚きました。

また、農村部ではまだトイレが普及していません。だから、屋外のいろんな場所で排泄するそうです。そのため、ハエや蚊が伝染病をもたらし、子供たちが、下痢やコレラ、赤痢などの病気にかかっているそうです。2014年には、年間1000人に57人の割合で5歳未満の乳幼児が、命を落としました。一方で、私達の住む日本では、そのような子供は1000人につき、3人しかいないそうです。トイレのない家なんて考えたこともありません。不衛生のために命を落としてしまうなんて、考えたこともありません。私にとっての「あたりまえ」は、ずいぶんと恵まれたものだ実感しました。

私は、これらのことをたくさんの本から知り

ましたが、それでもまだ、自分とかけ離れたどこか遠い国の話で、自分に結びつけることができませんでした。

ある日、学校の地下にある水道管が破裂しました。水が出なくなり、全校児童生徒が、臨時に下校することになりました。

私は「なぜ、そんなことくらいで。」と思いました。しかし、事態は意外と深刻でした。「このまま水道管が破裂したままだと、住んでいる地区全体が断水する恐れがある。」と知らされました。

その時、初めて考えました。「あたりまえ」がない生活を。

水がないと、料理ができません。顔を洗ったり、歯を磨いたりできません。お風呂に入ることもできません。洗濯もできません。学校でも手や牛乳パックや台拭きなどを洗えません。断水すると、トイレを流せなくなるということにも、気づきました。本当に驚き、戸惑いを覚えました。

結果として、水道管は大急ぎで修理してもらえ、生活に支障はありませんでした。しかし、水がない生活の不安を私に想像させるには、十分でした。

「あたりまえ」が「あたりまえ」ではなくなるという体験をし、私は自分が普段、どれだけ快適に過ごしていたのかがわかりました。そして、そのことに感謝したことがなかったことにも気づかせてくれました。

ほんの数時間でも不便で、不安な気持ちになったのに、それが一生続くとしたら…。

「あたりまえ」にあるものが、どれだけ大切なかがわかりました。

私は、今あるこの環境を「あたりまえ」と思わず、一つ一つのことに感謝していきたいです。

あなたは「あたりまえ」の状況に感謝していますか。



## 奨励賞

### 本当の自分

てしお てしお  
天塩町立天塩中学校3年

おおこうち ゆうな  
大河内 結凧

「どれも私達が勝手に複雑なものだと勘違いをしている」この一文。たった一文に、どんなに考えても見つからなかった答えがありました。先生に自分の思いを伝えられず、どうしたらわかってくれるのだろうと悩んでいたとき、ふと手にとった本にこう書かれていました。

私は、なかなか人と本音で接することができませんでした。小学生の頃、友達と喧嘩になり、何度も「そんなことはやっていない」と訴えても受け入れてもらえませんでした。それから、私は人に本音を言っても、「どうせ信じてもらえない」「何よりも否定されるのが怖い」と思い、本音を人に伝えるのが怖くなりました。しかし、中学生になり、思いを伝えられない自分を変えなくてはいけないと葛藤したり、伝えられずに一人で抱え込み、苦しいと感じることもありました。

私はバレーボール部に所属しています。今年に入り、顧問の先生が変わり、私はキャプテンとして自分が思っていることを伝えなければならない立場になりました。先生やチームメイトの間でうまくいかないことがあっても、「本音を言ったら否定されるかもしれない」と思い、先生に本心を打ち明けることから逃げるようになりました。先生やチームメイトとの間で揺れ動く自分自身からも逃げるようになっていきました。「何もかもいやになった」そう思う日が続きました。夢中で追いかけたボールも途中であきらめたり、練習の雰囲気もだんだん悪くなっていきました。心配して声をかけてくれる先生のことでも遠ざけるようになっていきました。しかし、先生は何度も正面から向かってきてくれました。そんな姿を見て私は、逃げているのは自分だけだ。先生は私のことを理解しようとしてくれている。それなのに、自分から遠ざけて、先生は私のことをわかってくれないと先生に、責任を全て押し付けている自分がダメなんだと気づかされました。今まで、本音で向き合うことから逃げ、相手のことをわかろうとしたこともなかった私は、どうすればわかり合えるのだろうかという壁にぶつかりました。どんなに考えても答えはわかりませんでした。そんなとき、あの一文に出会いました。

「どれも私達が勝手に複雑なものだと勘違いをしてい

た」本音を言ってもどうせ信じてもらえない。否定されるのが怖い。しかし、どんなに私が遠ざけようと、正面から向かってきてくれた先生なら、本音を言っても信じて受け入れてくれるかもしれない。本音を言っても、私自身を否定されると思っていること自体、私の勘違いなのではないかと思い、先生には素直に思いをぶつけてみようと思えました。先生が本気で向き合ってくれたからこそ、私は心を開いて本音を言えたのだと思います。弱い自分を見せたことで心が軽くなり、一人で強がっていただけだったのだと気づかされました。自分の本心と言うことは、相手を理解する一歩なのだと感じました。

今、私は私を信じて受け入れてくれる先生をはじめ、相談に乗ってくれる母や祖母、いつも笑わせてくれる叔母や友達など、たくさんの人に支えられていることに気がつきました。しかし、支えてくれているということに甘えず、相手に求めるばかりではなく、しっかり自分と向き合うことも大切だと改めて感じています。

辛いときに支えてくれるのは、弱い自分を受け入れ、本当の自分を理解してくれている人です。

私の将来の夢は、作業療法士になり、患者さんが一番辛いときに近くで支えてあげられる人になることです。その患者さんの良いところを引き出し、悩みや苦痛をとりのぞける人になっていきたいです。弱かった自分に何度も本気で向き合ってくれた先生、辛かった時に笑顔をくれた友達、側で支えてくれた母からたくさんのことを教わりました。だれかに支えてもらわないと不安になる自分や強がってしまう自分はまだまだ私の中にいます。ですが、将来の夢を叶える一歩として、本当の自分で人と接していきたいと思えます。

みなさんも、自分の本音を伝えることは怖かったり、不安に感じると思います。しかし、どれも私達が勝手に複雑なものだと勘違いをしているだけかもしれません。もしかしたら、その踏み出した一歩で、何かが大きく変わるかもしれません。少し勇気を出して、本当の自分で向き合ってみませんか。



## 奨励賞

### 絆の大切さ

ちとせ ちとせ  
千歳市立千歳中学校3年

いげた はるか  
井下田 晴香

「お前は今期は事務局次長をやり、来期は事務局長をやれ。」先生にそう言われたのは中学一年生の秋でした。生徒会で活躍する先輩達に憧れて、生徒会活動をやりたいと申し出たのは自分でしたが、仕事量が少なそうな役職をしたというのが正直な気持ちでした。だから、生徒会の中で一番仕事量が多く縁の下の力持ちといわれる事務局長を、なぜ自分が…という驚きでいっぱいでした。事務局次長になってからも初めは、何をしたらいいか分からず戸惑っていました。でも、先輩達の温かい言葉や励ましに勇気づけられ、自分も生徒会の中の一員なんだと徐々に思えるようになりました。一人一人の頑張りが大きな力になること、自分が今どう動けばいいのか、常に周りを見て自分で感じとっていくことが大切だと学びました。事務局次長を務めた一年間で、一番心に残っているのは、去年の秋の文化祭です。文化祭が成功した喜びと、もうすぐ先輩達が引退してしまう寂しさで、涙がこみ上げてきました。

事務局次長の次は事務局長をしなければいけないことはわかっていたのですが、生徒会活動と勉強を全力で頑張っている先輩を見て、自分に務まるのか不安でした。そんな中、事務局長だった先輩が「大丈夫。晴香ちゃんは絶対事務局長できるよ。」と抱きしめて励ましてくれました。先輩達からも励ましの手紙をいくつももらいました。そして、先輩から学んだことを発揮し、後輩に引き継がなければいけないと強く思うようになりました。

事務局長として一番大切にしていることは生徒会役員全員の動きを把握し、生徒会活動が円滑に進むように常に周りに目を配り、それぞれの仕事量を調節することです。全員が生徒会に入ってよかったと思えるように、絆を深めたいです。

私には、小学生の頃憧れていた職業がありました。中学生になり塾に入ると、自分よりはるかに勉強ができる人がたくさんいて、上を見たらきりがないと、痛感しました。自分の中で全力をつくしても思うような成績を残すことができず、思い描いていた自分との差に落胆することの連続でした。そんな時に、事務局次長をやれと先生に言われたのです。

今振り返ると、先生方が事務局長を私にまかせてくれたのは、自分では気づかない自分の良い部分を見つけて、認めてくれたからではないかと思います。先生方が私に自分の力を発揮する機会を与えてくれて、先輩達の励ましがあったからこそ今の自分があるのだと思います。目標に向かい諦めずに努力することは大切です。けれど、勉強やスポーツではないところで、勝ち負けを意識せず、周りとの絆を深めながら自分を発揮することも大切なのではないのでしょうか。あたえられた場所がたとえ自分の望んだものでなくても、仕方なくやるのではなく、全力でやり抜く。するとそこから、新しい発見や絆が生まれ自分の世界や夢が広がります。私の今の夢は、人の役に立つ仕事。さまざまな人と関わる仕事に就くことです。なぜなら私は、人と関わるのが大好きなんだ、と生徒会活動を通じて気づいたからです。

これからも、自分の思い通りにいかないことはたくさんあるかもしれませんが。そんな時こそ他人と自分を比べるのではなく、人の言葉にしっかり耳を傾け、人との関わりの中で自分のできることをさがしながら前に進んでいきたいです。

私がかじけそうな時に、力を与えてくれた先輩達や仲間、先生方との絆は私の宝物です。一日一日を大切に過ごし、悔いのない中学校生活を送りたいです。



## 奨励賞

### 「幸せ」な人になるために

べっかい べっかいちゅうおう  
別海町立別海中央中学校3年

さの あやか  
佐野 綾花

「ああ、幸せになりたい」

そんな言葉を口にしたことはありませんか？私たちが一番に望むこと、それは「幸せ」だと思います。誰もがみな、「幸せ」を求めるでしょう。

では、あなたが思う「幸せ」な人とはどんな人のことでしょうか？お金を持っている人ですか？自分の夢を叶えた人ですか？それとも運がいい人でしょうか？どれもあてはまるのかもしれないですし、また、ある人にとってはどれも違うのかもしれないかもしれません。なぜなら一人一人の「幸せ」のイメージは違うからです。「幸せ」にもさまざまならえ方があるので、「幸せ」と一言で言っても、こうなったら「幸せ」だよ、と一つにまとめることはできないのです。

では、その「幸せ」のイメージと今の自分を比べてみましょう。私の生活を振り返ってみると、朝、ご飯を食べて登校。授業を受け休み時間は友達とおしゃべり。放課後は部活をして帰宅。のんびりしたいのに「自学はやったの？」と言われ勉強。晩ご飯を食べて、ちょっとテレビを見る。そして、お風呂に入って寝る。気付くと朝になっていてまた同じ日常がやってくる。どうでしょう。こんな生活は「幸せ」なのでしょうか。こう言葉にして表すと何とも特徴のないごくごく普通の平凡な毎日。私と同じように自分たちの生活は「幸せ」というには少し物足りないと感じたりする人もいるのではないのでしょうか。

しかし、視点を変えると、感じ方が少し変わってくることに気付きました。

世界に目を向けるとおよそ5,950万人の難民がいます。家もなく外で暮らすしかない人々。お腹が減って減って仕方がないのに食べ物を満足に用意することができません。栄養が足りなくて体が弱ったり、病気にかかってしまったりします。お金もなく病院に行けずに亡くなってしまう子供たちもたくさんいます。もちろん、学校にも行けず、さらに私たちと同じくらい、またそれより幼い年

の子供たちが、生活のために結婚させられてしまうこともあります。

私は「毎日、学校めんどくさい」「勉強いやだな」と思うことがあります。でも、世界には勉強したくてもできない子供たちがたくさんいる現実を知り、生きていくことで精いっぱいだという彼らと比べると、食べたいものを食べ、家もある私たちが過ごしているこの平凡な毎日は「幸せ」なことと思えるのではないのでしょうか。これほどまでに衣、食、住、何の心配もない生活を送れているのにこれ以上の「幸せ」を求めるのは欲張りだと言われるかもしれません。それでも人はその「幸せ」に慣れてしまうとその「幸せ」を日常だと言い、さらなる「幸せ」を求めようとしています。

「幸せ」というのは自分が気付いていないだけで、身の周りにたくさんあるのです。だから、私はこう思います。「幸せ」な人というのは自分の周りのささいなできごとにも「幸せ」だなあ、と感じることができる、そんな人なのだと。ご飯がおいしい。部活で活躍できた。好きな人と目が合った。星占いが1位だった。そんな小さなできごとで十分なのです。そんな小さなできごとで幸せを感じることができる人が、より多くの「幸せ」を手に入れることができるのだと私は思います。だから皆さん、自分の生活をもっとよく振り返ってみませんか？できごとをもっとよく意識してみれば「幸せ」はたくさん見つかるはずですよ。そんな小さな「幸せ」に気付く「幸せ力」を持つことが幸せな人になる「第一歩」だと思います。「笑う門には福来たる」ということわざがありますが私はこのことわざを小さな「幸せ」を感じる力のある人にこそ大きな「幸せ」がやってくる、という意味だと思っています。今日を過ごせる「幸せ」を感じるのが大事です。今の生活を大事にしてください。

「幸せ」な人になるために。



## 奨励賞

### 真の国際人

きょうごく きょうごく  
京極町立京極中学校3年

## グライナー・オリビア・咲

私は日本人の母とアメリカ人の父を持つ混血です。私は小学校1年生の時に日本に来て以来小・中と公立の学校に通っています。ですから、多くの時間を日本社会の環境の中で過ごしています。そのため、日本人気質が強い私ですが、アメリカも日本も私の一部なのでどちらかを選ぶ事はできません。あくまで混血だということが事実です。世界には私のような人はたくさんいます。決して特別ではありません。しかし、混血という事実だけで私は「国際人」だと思われることがあります。

「国際人」最近よく耳にする言葉です。最近では書店に行けばこのタイトルの本がたくさん並んでいます。そしてその隣には必ず英語関連の書籍がセットになって置いてあります。そのためか私には「国際人＝英語習得」というイメージが強いです。おそらくそう思っているのは私だけではないと思います。

また、テレビを見ていると西洋の流行りや外国人っぽいことを「かっこいい」と表現している番組を見ることもあります。英語を使いこなせたり、西洋のマネをしてそれっぽくすれば、それが「国際人」なのでしょうか。

そこで私は「真の国際人」とは何なのか考えてみることにしました。そのためにはまず、自分自身が何者か？ということ深く考える必要があると思いました。そうして改めて考えると、日本人気質が強いと思っていた私ですが、全くと言っていいほど日本の文化や歴史などを知らないことに気がついたのです。

少し話は変わりますが、世界の人々は今日本に大変興味があると聞きます。特に2020年でオリンピックを前に、日本ブームが起きているそうです。東南アジアでは日本の食文化に大変興味を持っているそうですし、欧米では「おもてなし精神」や「神社」などに

魅力を感じているそうです。

このようなことをまず自分達で知らなければ「国際人」とは程遠いと思います。自国の文化や歴史などを自分の中に埋め込んで初めて「国際人」としての自分を確立できるのです。そして自分のルーツを知ることができれば、私自身何者かが見えてくるのではないのでしょうか。これは世界の人達とふれ合う時にとても大きな支えとなるはずです。

私たちは世界の人々を迎え入れる側として今からでも日本について学び直し、そして多くの来日客に楽しい、美しい日本を提供すべきだと思います。

現代の私たちはこのような日本の文化や歴史から目を背け、学ぶことを怠っているように感じます。他にも日本には美しい言葉や表現がたくさんありますし、四季に恵まれた美しい自然もあります。自国の文化をしっかりと知ること。それができて初めて世界に目を向ける準備が整ったと言えるのではないのでしょうか。準備が不十分では相手が理解することはできないですし、相手からも理解されません。これでは「真の国際人」とは言えないと思います。

そしてもう一つ、様々なことを伝える手段として英語が必要になってきます。しかし、決してネイティブスピーカーのような流暢な英語は必要ではないと思うのです。大切なのは伝えたいと思う気持ち。その気持ちがあればお互いに理解しようと思えるのではないのでしょうか。

どんな人でも「国際人」になれる。そのために必要なことはまず、「自国の文化を知り、自分の考えを自分の言葉で世界に発信できる人」になること。そして、「伝えたい」という気持ちを強く持ち続けることだと、私は思います。



## 奨励賞

### 本当の「ありがとう」～尊厳を大切に～

さつぼろ ひらぎし  
札幌市立平岸中学校2年

こじま ひめか  
小島 妃香

「ありがとう。」そう言われても喜べません。

一昨年2月。私の父が突然私を小学校に迎えに来ました。祖父が緊急入院、緊急手術することになったのです。私達が着いたときには、手術を終えた祖父が病室のベッドで疲れ切った表情で眠っていました。病名は慢性硬膜下血腫。2ヶ月前に、家の外で転んで頭を打った事が原因とのことでした。

幸いにもその後の祖父の経過は良好で、2週間あまりで無事退院する事が出来ました。しかし、祖父母の穏やかな暮らしが取り戻されたと思った矢先に、新たな問題が生まれました。それは、祖父が病気の後遺症で車の運転を主治医から禁止され、普段の暮らしに車が使えなくなった事です。祖父が住んでいる地域は、最寄りのスーパーに行くまでに歩いて1時間はかかる田舎なのです。そのような事情から退院後は私の母や叔母が祖父の通院の送り迎えなど出来るサポートは精一杯しました。しかしそれも限界があったようで、祖父は主治医からの禁止令を破り、運転を再開してしまいました。既に運転免許を返納している祖母と二人で暮らしていくためには、おのずとそうするしかなかったのです。私は普段利用する道に危ない場所はないのか不安を抱き、祖父の家から利用しているスーパーまで行ってみました。すると、信号がない交差点や、急なカーブが続く道路などいつ事故が起きてもおかしくないと言えるところがたくさんありました。

もしかしたら、自動運転という技術が私達の不安を解決してくれるかもしれません。しかし、祖父は今後自力で歩く、排せつするといった機能を失っていき、今出来ている事がひとつひとつ出来なくなってしまう可能性があります。そういった機能はヘルパーさんなどが助けてくれるかもしれませんが、しかし機能と同時に失っていくものがあるのではないかと私は思います。それは尊厳です。祖父は高齢者の運転は危ないから免許を返してほしいという世間の言葉をどう受け止めていたので

しょうか。そして、今後自身の機能を失っていったら、どう思うのでしょうか。私には車を運転する事も自動運転のような技術を開発する事もできません。けれども祖父が自分らしく生きていく事だけは私の力で守りたいと思います。

そんな時、私は祖父の私に向けたこんな言葉を思い出しました。祖父の家に遊びに行った帰りの事です。「じいちゃんもばあちゃんも妃香に会うのをいつも楽しみにしているんだよ。来てくれてありがとう。また遊びにおいで。」確かに私がいに行けば祖父母は喜ぶし、私も楽しいです。しかし、それだけで本当に私は祖父達を幸せにしているのでしょうか。

私達若い世代の人達が高齢者を助けた時、「ありがとう」という感謝の言葉をいただきます。でもそれは、いつまで続くのでしょうか。自分の祖父や祖母が私達の事を思ってお皿洗いや部屋の片付けをしてくれるのを見て、自分がやった方が速いと思い、やめさせてしまう事はありませんか。私もつい、「私がやるからじいちゃんは休んでいいよ」と理由も言わずにやめさせてしまう事があります。そんな時に私は、誰かの役に立ちたいと思う祖父の心、祖父の大切な尊厳を奪っているのではないかと考えました。祖父は通院や買い物の送り迎えをする私達家族に、いつも「済まないね、ありがとう」と言ってくれます。祖父母の生活を支える事は確かに大切な事です。それと同時に、私達が高齢者の気持ちに素直に感謝し「ありがとう」が言える事も、尊厳を守る上で大切な事だと思います。

祖父は6人に1人の15%の再発率を抱えています。現在のところ順調に回復しており、夫婦で穏やかに暮らしています。これから私は祖父の口から「ありがとう」を聞くだけでなく、祖父に対する「ありがとう」が自然に口から溢れ出るようになりたいです。そして、祖父や祖母に心から頼られるようになりたいと思います。



## 奨励賞

### 「努力」って、何？

わか  
な  
い  
し  
お  
み  
お  
か  
稚内市立潮見が丘中学3年

し  
み  
ず  
し  
ょう  
へ  
い  
清水 紹平

「もっと努力しなさい。」

「よく努力したね。」

皆さん、こんな言葉を一度は耳にしたことがあるのではないだろうか。私はこの「努力」という言葉が嫌いだった。自分で「これはがんばれたな。」と思うテストで、思うような結果が得られなかったりすることが多かったからだ。2か月前の学力テストもそうだった。

自分が期待した点数よりもかなり低く、「自分ではがんばったつもりなのに…悔しい。」と心の中がネガティブな感情で埋めつくされた。「勉強なんて意味ないや。」と正直思った。そんな時、何気なくテレビをつけると、プロ野球で活躍している大谷翔平選手のドキュメンタリーが放送されていた。そのわずか1時間ほどの番組に私は目をうばわれていた。普段の試合では見せない姿。二刀流という前人未到の道を歩き続けるため、ひたむきに練習を続ける大谷選手。その姿はまさに「努力の先生」そのものだった。

私がそう感じたのは、大谷選手のある一言があったからだ。

「憶測で自分に制限をかけるな」

私ははっとさせられた。今までの自分は何をやっても「これぐらいやればいいかな。」と勝手に自分自身の限界を決めつけていた。プロ野球選手という、多くの人が憧れる職に就きながら、それでもまだ成長しようと努力を続ける大谷選手を見て、自分がいかに小さく、弱い人間なのだろうと感じ、情けない気持ちになった。「もっともっと、努力をしなければいけない。」そう思った時、聞き慣れたピアノのメロディーが流れてきた。私はふと思った。「妹だって、努力の先生かもしれない。」

妹は、将来音楽関係の仕事に就くため、毎日ピアノを弾いている。多いときには一日一

時間以上弾き続け、今では曲の伴奏を自分で考えて弾けるまでになっている。少しずつ、でも着実に、妹の姿勢は見習わなくてはならないし、兄として誇らしい気持ちになった。家族の中にもう一人、努力の先生がいる。それは私の父だ。父はかつて甲子園を目指し、一年中野球に打ちこんでいたそうだ。そんな父は「努力」という言葉をこのように解釈しているという。

「努力とは、日常の中にある小さな目標を達成し続けることだ」

この言葉も、私に大きな影響を与えてくれた。私の中で、陰に隠れていた「努力」という言葉の本当の意味がやっと顔を見せてくれたような気がした。私は、たくさんの「努力の先生」に出会ったことで、「努力」という言葉が大好きになった。今は「目標シート」というものを作り、一日一つ小さな目標を達成することをがんばっている。まだまだ一つも達成できない日は多いが、達成できた日には丸をつけていて、今はその丸が増えるのを見るのが楽しみになっている。この小さくて地道な目標たちが、いつか大きな努力の結晶となり、私の夢へと導いてくれると信じてこれからも小さな小さな「努力」を続けていこうと思う。

今、私と同じように努力しても結果が出ないと悩んでいる人には、私が「努力の先生」となってこの言葉をかけたいと思う。

「憶測で自分に制限をかけるな！小さな目標を達成し続ける！」



## 現実（リアル）

りくべつ りくべつ  
陸別町立陸別中学校3年

やまもと ゆづき  
山本 如月

「私、あの子のこと嫌いなんだよね。」

そんなたった一言から、簡単にこわれてしまうもの、それが人間関係。当時の私は、裏切られた虚無感だけが心に残り、今まで楽しかった思い出もその言葉で覆われ、黒く塗りつぶされてしまいました。もう、その友達と楽しく過ごす時間は無いのだと……。

キッカケは些細なケンカだったと思います。私は友達から孤立してしまい、休み時間など一人でいる時間が増えてしまいました。急に他の友達と行動する勇気もなく、

「どうして？私、何か悪いことした？ねえ、教えてよ！」

そう思うばかり。でも、今にしてみれば、ケンカをした罪悪感からお互いなんとなく素直になれず、近寄れなかつただけだったのだと思います。だから、いつの間にか以前のような関係に戻れていました。時間が経てば記憶は薄れ、また元に戻る。時間が解決してくれる。本当にそうでしょうか。私の心の中は、

「とにかく、もう一度友達にならないと！また、一人になったらどうしよう。」

という考えばかりで、周りの友達に合わせ無理に笑顔をつくる日々でした。時間は何も解決などしてくれなかったのです。そんな学校生活を送る中で私は、自分の耳を疑いました。周りに嫌われないようにと、ただただ必死だった。なのに、耳に響く言葉は「私の悪口」。そして、いつしか私は、悪口を言うようになっていました。悪口を言われる辛さを、私は知っていたはずなのに……。結局、私も同じなのです。自分の心によく聞いてみると、

「悪い心」が顔を覗かせる。被害者なんかではなかった。いえ、私だけではありません。確かに悪口を言うてはいけない。親から言われた。学校でも教えられた。みんなそうです。なのに、悪口を言わずに生きてきた人がどれだけいるのでしょうか。

いじめ総件数約20万件のうち、小学生約2千件、

中学生約5千件がネットや携帯電話だけの誹謗中傷が原因です。さらに、全国の中学生対象に「ネットのみならず悪口を言われたことがあるか」という調査では、65%以上が経験あるという結果でした。こんなにも多くの人が悩み苦しんでいる。つまり、悪口を言うてしまう人がいる。いじめを根絶する。もちろん当たり前なことです。しかし、現実問題として悪口を耳にする度、傷ついてばかりいていいのでしょうか。今の私たちには、「強い心」を持つことも必要なのではないのでしょうか。

社会やテクノロジーが複雑化する上で、コミュニケーションの方法も多種多様となり、私たちが築き上げる人間関係も複雑化しています。遊び、進路、職業。たくさんの選択肢を与えられ、社会の風潮やメディアなど、目に見えないものに守られています。

「現代の子には、危険が溢れている。弱い子供たちを守れ！」

と。だから、私たちは弱くなる。大人へと成長していきながら経験していくはずが、それよりも先に体中に情報が溢れてしまう。バーチャルな経験や人間関係ばかり持つ私たちは、被害者になる。被害者だと思い込む。いつ、どこで、誰からどんな攻撃をされるかなんてわからないのだから、今の私たちは身を守る術と同時に、耐え得る「強い心」を持たなければならないのです。直に人と関わることで、衝突、妥協、摩擦を繰り返しながら歪な心の形を整えていく。それが「強い心」の作り方なのではないのでしょうか。

私は今まで、後悔ばかりでした。この先、できるだけ後悔はしたくない。未来の私に後悔をさせたくない。人の心の弱さを知っているからこそ、強くなりたい。人に優しくありたい。これから現実の中で直接、様々な人と関わっていきたくから。たくさんの友達。頼もしい仕事の仲間。そして、いつの日か、まだ見ぬ新しい家族と出会うために……。

(※都合により、全道大会欠席)



## 講 評

審査員長 北海道中学校長会幹事

かま だ ひろ ゆき  
鎌田 浩志

今年も全道各地区の代表として、15名の中学生の皆さんから、大変素晴らしい発表をしていただきました。審査結果発表の前に、お一人お一人の講評を、短時間ではありますがさせていただきます。

### 【発表者別】

#### ①坂本 安佑子さん テーマ「私が髪を切った理由」

画面に映し出された病気に苦しむ女の子が笑顔に変わる姿に心を動かされ、その取組に賛同し自らも行動に移すという実行力は大変素晴らしい事だと思います。ボランティアに対する考え方を再考し、自分でできるボランティアを確立するきっかけとなり、誇りに感じる思いをこれからも大切にしてください。

#### ②佐々木 理音さん テーマ「大人になるといこと」

自らが経験した東日本大震災から学んだ、大人としてのあるべき姿やそれまで気づけなかった大人の存在の有り難さが直に伝わってくる内容でした。私たち大人の言動を再度見つめ直す契機を示唆されたように感じました。是非、次世代につながる大人を目指して成長していきましょう。

#### ③片桐 望羽さん テーマ「生き続けるということ」

曾祖母が他界したことをきっかけに「ありがとう」という素敵な言葉に出会ったことを取り上げ、曾祖母の生と結びつける感性に感心しました。恥ずかしくても自分の感情を隠さずに、素直に打ち明けることや他人に「ありがとう」を伝えることの大切さを訴えた説得力のある主張でした。

#### ④若林 千真さん テーマ「誰かのために笑顔を生む」

父と一緒に参加したお祭り後のゴミ拾いで体験から、人との関わりの中での心の変遷が手に取るように表現されていた主張でした。ボランティアへの考え方も変わり、小さな気づきができる人へと成長。来たる東京オリンピックを、笑顔の輪を広げ、おもてなしの心で成功させたいものです。

#### ⑤谷口 萌香さん テーマ「救うのか、傷つけるのか」

言葉の力について、自らの傷つけられた経験や救われた経験を基に言葉の持つ力をどう使うのかを訴えた主張でした。人間の世界では決して切り離すことのできない言葉。普段何気なく使っている言葉ではあるが、時には凶器となってしまう。発する前に一度立ち止まることの大切さを教えてくださいました。

#### ⑥阿部 はるかさん テーマ「支える側への配慮も」

昨今、需要の高まりを見せている介護業界へ、鋭いメスを入れ、一石を投じる内容でした。父から聞かされた事や自分が体験した介護施設での出来事を通して、介護する側とされる側の苦しみを力強く訴えた主張でした。これからも多くの人たちに発信し続けて、やりがいのある職業への転機となることを期待したいものです。

#### ⑦藤田 健太さん 「思いやりは忘れない」

祖父との関わりから、微笑ましい人間模様が伝わってくる内容でした。祖父の事故をきっかけに当たり前のできないときの辛さを理解し、「優しい」と「思いやり」を持つことで多くの人を救えるという主張でした。辛い思いをしている人の立場になって考え、行動することの大切さを訴えてくれました。

#### ⑧具山 香那芽さん テーマ「あたりまえ」

水のない生活の経験からその大変さに気づき、世界の子供たちに起こっている現実にも目を向け、自分の置かれている「あたりまえ」の環境の快適さを感じ、日常に感謝する心の大切さを訴えた主張でした。これからも身近な生活環境一つ一つに感謝し、自分の主張を身を持って実践してください。

#### ⑨大河内 結凧さん テーマ「本当の自分」

「どれも私達が勝手に複雑なものだと勘違いをしていた」という一文との出会いから、自分を見つめ直す契機となり、人間として一回りも二回りも大きく成長した様子がはっきりと窺える内容でした。しっかりと自分と向き合った上で、相手と向き合うことの大切さを訴えた勇気を与えてくれる主張でした。

#### ⑩井下田 晴香さん テーマ「絆の大切さ」

生徒会活動に関わっていく過程で、温かい言葉や励ましに勇気づけられた経験から、心の成長を感じ取ることができる内容でした。その中で得ることのできた人との掛け替えのない絆。勝ち負けを意識せず、周りとの絆を深めながら自分を発揮することの大切さを教えてくれた主張でした。

#### ⑪渡部 胡桃さん テーマ「左耳が教えてくれたこと」

自らの障害のある左耳によって、素晴らしい医師と、心の不安を一心に支えてくれた看護師と出会い、そこから将来の夢を見つけることができた体験を基にした、心のこもった主張でした。左耳を大切な宝物として捉えられる心の動きに感銘を受けました。看護師になる夢を是非実現させてください。

#### ⑫佐野 綾花さん テーマ「『幸せ』な人になるために」

「幸せ」とは、という素朴な問いかけから、自分の生活を見つめ直し、更には世界と比較し思考を膨らませ、一つの結論を導き出すことができました。小さな出来事に幸せを感じることができる人が、より多くの幸せを手に入れることができ、毎日の小さな幸せに気づく「幸せ力」を持つことの大切さを訴えた主張でした。

#### ⑬グライナーオリビア 咲さん テーマ「真の国際人」

日本人の母とアメリカ人の父を持つ自らの家庭環境と「国際人」という言葉が発するイメージとのギャップに目を向け、真の国際人を論じた主張でした。自国の文化や歴史をよく知ることが第一歩であり、何よりも伝えたいという気持ちを持ち続けることの大切さを訴えてくれました。

#### ⑭小島 妃香さん テーマ「本当の『ありがとう』～尊厳を大切に～」

病床上に倒れた祖父と家族のサポート体験から、高齢者に対する「尊厳」について思考を発展させた主張であり、高齢者の気持ちを思い「ありがとう」と素直に感謝し発することの大切さを訴えてくれました。これからも若い世代の人たちに発信し続けると共に、身を持って実践していきましょう。

#### ⑮清水 紹平さん テーマ「『努力』って、何？」

嫌いだっ言葉「努力」。テレビ画面から聞こえてきた日ハム大谷選手の手言葉から努力の真意に気づかせられ、本当は身近に努力の先生がいたことに気づく。自らの経験を通して努力の大切さと自らの実践を力強く訴えた主張でした。これからも自分の夢の実現に向かって実践し続けてください。

### 【全 体】

今年の「少年の主張」全道大会も、それぞれ内容があり個性が光る、素晴らしい大会となりました。15人の発表者の皆さんに、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。そして大変ご苦労様でした。

審査につきましては、論旨と論調という2つの観点から行いましたが、自分の思いを人に伝えるということは、数字だけでは表しきれない深いものがあると感じています。どの発表も甲乙つけがたく、審査員全員が大変悩みました。

最優秀賞、優秀賞を受賞された4名の皆さん、本当におめでとうございます。また、奨励賞となった11名の皆さんも、最優秀賞、優秀賞に匹敵する心に残る大変素晴らしい発表でした。どうか胸を張って地元へ戻られ、報告してほしいと思います。

今日は、ご家族の皆様、学校の先生、発表者を支えてくださいました関係者の皆様、そして日頃から青少年健全育成に貢献されてきておりますたくさんの方々から来ています。若き弁士の各発表に対する真心の拍手、本当にありがとうございます。代表いただきました、心よりお礼を申し上げます。

発表者の皆さんの身近な話題や体験から、こんな考え方・見方ができるのかと私を含めて多くの大人が改めて考えさせられたのではないのでしょうか。皆さんの鋭い感性に深く感銘を受けました。皆さんは、今日のこの日のためにたくさん努力と準備をしてきたことと思います。また、勇気を出して、聴衆の皆さんに自分の思いを何とか伝えようと努力していました。そうした苦勞のかいがある、聞いていただいた聴衆の皆さんに勇気と希望と感動を伝えることができました。また、それだけではなく、実はこの大会が発表者の皆さん自身を大きく成長させる機会となったのではないかと思います。どうかこの大会を通して学んだことを、今度は、学校で家庭であるいは地域で生かしながら、さらに大きく成長し、それぞれの立場で活躍してほしいと思います。皆さんの今後のご健闘を心よりお祈りしています。

## 「仲間を守る一言」

にいがた つぼめ  
新潟県立燕中等教育学校2年ひら さわ こう め  
平澤 幸芽

「Aちゃんをはぶろうよ。」

もし、友達にこう言われたら、あなたは本当の自分の意見が言えますか。私は言えませんでした。だから私は、この主張をします。かつてのAちゃんみたいな人が、少しでも減ることを願って。

「Aちゃんをはぶろうよ。」

仲の良い友達から、突然言われた一言だった。私には、Aちゃんを嫌う理由がなかったから、頭の中が疑問だらけだった。「昨日まで、仲良くしていたのに、何でいきなり？」しかし、その疑問は口に出せないまま、なんとなくうなずくだけで、のどの奥に沈んでいった。

次の日から、身近な友達の全員がAちゃんを無視し始めた。Aちゃんが近づいてくると離れ、Aちゃんの話の遮るように誰かが話を始め、Aちゃんをわざと一人にした。だんだんとAちゃんから笑顔が消え、やがて近づいてこなくなった。周りの友達は笑っていた。

私は「こんなことをしてはいけない」「こんなのいじめだ」と分かっていた。目の前で繰り返される残酷な光景に対して、分かっていたが、声が出なかった。これを言ってしまったらどうなるのだろうか。Aちゃんともう一度仲良くなれるのだろうか。それとも、次は自分がはぶられるのだろうか。自分がはぶられることは、絶対に嫌だった。だから私は、周りの人に合わせて、意味もなく笑った。自分の意見が言えないまま。Aちゃんを避け続けた。

それからというもの、友達という存在が、「楽しい人」から「疲れる人」へと変わっていった。もう一緒にいるのも疲れてしまい、面倒だった。けれど、嫌われたくないから、とりあえず何でも「うん」と答えた。私はそんな「友達」が嫌いだった。しかし、もっとも嫌いながいた。それは自分自身だった。はっきりと「良い」も「悪い」も言えない自分が嫌いだった。ある夜、ノートに真っ赤な文字で、「大っ嫌い、大っ嫌い。死ね死ね死ね……」と書き殴った。そのページの一番上に、はっきりと「自分なんか」と書いていた。

そんな中、インターネットを開き、画面に目を通していると、私はある言葉と出会った。「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる。」

それを見た瞬間、ドキッとした。まるで今の状況を理解して、私のために書かれているかのような言葉だったからだ。その時やっと気づくことができた。自分が変わらなければならないということ。私が言うべき言葉は「うん」という「自分を守るための言葉」ではなく、「こんなのはいじめだよ。もうやめよ！」という、「大切な仲間を守るための言葉」だったということ。

「ねえ、もう、やめよ。」次の日、あの言葉に背中を押され、勇気を出して、私は友達に伝えた。「……うん。」少し間を置いて、友達は私の言葉を受け止めてくれた。そして、みんなでAちゃんに謝った。

今年6月、県内の中学2年生がいじめを苦にして、自らの命を絶った。同い年の子が、私が想像もできないくらいの、痛みや苦しみを抱えて命を絶ったであろうことにショックを受けた。それと同時に、もしAちゃんを避け続けていたとしたらと考えたとき、私は恐ろしい気持ちになった。誰も、彼を守ってあげられなかったのだろうか。周囲の人たちはみな、私のように、救いの一言を飲み込んでしまったのだろうか。「やめようよ。」その一言は、命が失われてからでは遅い。いじめは人を死に追いやる。だからこそ、周囲の態度は、それに対して責任をもたなければならないと思う。

私は、今では仲の良い友達にも「良い」、「悪い」と自分の思いを伝えている。安易に同調することだけが、友達ではないからだ。それから、「なんでもいい」という言葉はあまり使わないようにしている。「なんでもいい」は自分の意見を言うことを放棄していることであり、無責任な態度だからだ。今でも時々、「○○ちゃんってうざくない？」そんな言葉を耳にする。でも私は、「私はそんなことないと思うよ」と、責任をもって、自分の意見を言うようにしている。その一言が、周りの大切な仲間を守る一言になるからだ。

## 《大会のねらい》

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していき、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表してもらう機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的としています。

(国際児童年の昭和54年から毎年開催)

## 《大会のあらまし》

- **総合振興局・振興局地区大会** 地区代表者の選出
- **全道大会** 地区代表者16名の参加  
最優秀賞1名  
(北海道・東北ブロック代表選考に推薦)  
優秀賞3名を選定
  
- **全国大会出場者の選出**  
全国を5つのブロック(北海道・東北/関東・甲信越/中部・近畿/中国・四国/九州)に分けて都道府県代表者の主張原稿及び録音テープを審査し、各ブロックの代表者12名を選出
  
- **全国大会**  
平成29年11月12日(日)、東京都において開催  
ブロックの代表者12名参加(内閣総理大臣賞ほか各賞決定)

## 《審査員》

### 審査員長

鎌田 浩志(北海道中学校長会幹事/新十津川町立新十津川中学校長)

### 審査員

近藤 浩((公益)北海道青少年育成協会理事/北海道新聞社編集局次長・報道センター長)

平田 弘子(北海道PTA連合会事務局次長)

堀本 厚(北海道環境生活部くらし安全局長)

松井 晃之(北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主幹)

# 平成29年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会開催状況



応募校数 349校 応募者数 38,092名

総合振興局・振興局名	開催日	開催場所	発表者 (人)	審査員 (人)	聴取者 (人)
空知総合振興局	7月19日(水)	芦別市民会館	15	5	150
石狩振興局	7月13日(木)	道庁赤れんが庁舎 1号会議室	7	4	70
後志総合振興局	7月28日(金)	倶知安町公民館(文化福祉センター 大ホール)	15	5	162
胆振総合振興局	7月10日(月)	むろらん広域センタービル3階会議室A	11	3	52
日高振興局	7月 8日(土)	日高合同庁舎	7	5	60
渡島総合振興局	6月16日(金)	北斗市総合文化センター(かなで〜る 大ホール)	13	4	450
檜山振興局	6月21日(水)	せたな町民ふれあいプラザ	15	5	230
上川総合振興局	7月19日(水)	上川合同庁舎 3階講堂	23	5	85
留萌振興局	7月28日(金)	留萌合同庁舎 2階講堂	8	5	75
宗谷総合振興局	7月18日(火)	稚内市立潮見が丘中学校	11	5	320
オホーツク総合振興局	7月20日(木)	網走市立呼人中学校	9	3	77
十勝総合振興局	7月 1日(土)	十勝総合振興局 3階講堂	19	4	97
釧路総合振興局	7月26日(水)	北海道立釧路高等技術専門学院 講堂	8	5	65
根室振興局	7月20日(木)	標津町生涯学習センターあすばる 多目的ホール	10	6	210
合 計			171	64	2,103

# 平成29年度少年の主張実施要領

## 1 目的

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会において、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的とする。

## 2 主催

北海道、公益財団法人北海道青少年育成協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 3 主管

総合振興局・振興局地区大会は各総合振興局・振興局、全道大会は環境生活部とする。

## 4 対象

北海道内に在住の中学生

## 5 名称

少年の主張

## 6 実施方法等

### (1) 総合振興局・振興局地区大会

各総合振興局・振興局管内（札幌市を除く）の中学生を対象に意見を主張する場を設定する。

#### ア 実施方法

大会形式により実施する。

#### イ 募集

- ・教育局の協力を得て、管内市町村教育委員会等を通じて、各中学校に対し、周知を図る。
- ・各市町村単位、各学校単位で実施している主張大会、弁論大会等と連携した募集の他、自由公募などにより募集する。
- ・広報媒体を利用した募集に努める。

#### ウ 発表内容

- ・社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- ・家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
- ・テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

上記のような内容で、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを少年らしい自由でユニークな、飾り気のない言葉でまとめたもの。

※ 商業的な固有名詞の使用は極力避けることとする。

※ パフォーマンスや小道具の使用を取り入れてもよい。

#### エ 発表時間

5分程度（400字詰原稿用紙4枚程度）

※全国大会の規定が4分30秒～5分30秒までとなりましたので、振興局地区大会代表者の時間が範囲に入らない場合は、全道大会出場に向けて必ず時間調整を行ってください。

#### オ 審査

- ・関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・審査により、最優秀者1名及び優秀者2名を決定する。

#### カ 審査基準

##### (ア) 論旨

- ・鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
- ・新しい情報や視点があるか。
- ・個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ・提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ・論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

- (イ) 論調
  - ・主張の内容が共感と感銘を与えているか。
  - ・説得力ある話し方であったか。
  - ・話し振りに熱意と迫力があるか。

**キ 実施月**

原則として7月の「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動強調月間」に実施する。

**ク 表彰**

- ・最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状等を授与する。
- ・表彰に当たっては、賞状の他、副賞の授与、また、出場者数、地域の実情等に応じ、予算の範囲内で工夫して差し支えないこと。

**ケ 推薦**

最優秀者を全道大会出場者として、平成29年8月15日（火）までに、環境生活部に推薦する。

なお、最優秀者が全道大会に出席できない場合は、優秀者を推薦する。

また、総合振興局・振興局地区大会の開催内容を記載した資料も添付すること。

**(2) 全道大会**

各総合振興局・振興局から推薦された最優秀者及び札幌市の代表者2名を対象に意見を主張する場を設定する。

なお、札幌市の代表者については、札幌市中学校長会に推薦を依頼する。

**ア 実施方法**

大会形式により実施する。

**イ 発表内容**

総合振興局・振興局地区大会と同様

**ウ 発表時間**

総合振興局・振興局地区大会と同様

**エ 審査**

- ・関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・審査により、最優秀者1名及び優秀者等を決定する。

**オ 審査基準**

総合振興局・振興局地区大会と同様

**カ 実施月日**

平成29年9月8日（金）開催の「北海道青少年育成大会」において実施する。

**キ 表彰**

- ・最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状及び副賞を授与する。
- ・入賞者以外には、奨励賞を贈呈する。

**ク 推薦**

最優秀者は全国大会出場候補者として、独立行政法人国立青少年教育振興機構に推薦する。

**ケ その他**

発表者及び随行者には旅費を支給する。

**7 その他**

- ・主張発表者の原稿は400字詰原稿用紙（A4）縦書きで、本人自筆による原本（障害等による場合はワープロ可）とする。
- ※全道大会出場者については、A4サイズ以外の原稿では出場できません。異なるサイズの場合は、A4サイズに書き直した原稿が必要となりますので、ご注意ください。
- ・応募作品は、未発表のものに限る。
- ・応募された作品は、原則返却しないこととし、北海道に帰属するものとする。
- ・原稿の書き出しについては次のとおりとする。

4 行 目	3 行 目	2 行 目	1 行 目
作文		北海道	タイトル
～	氏名	学校	学年

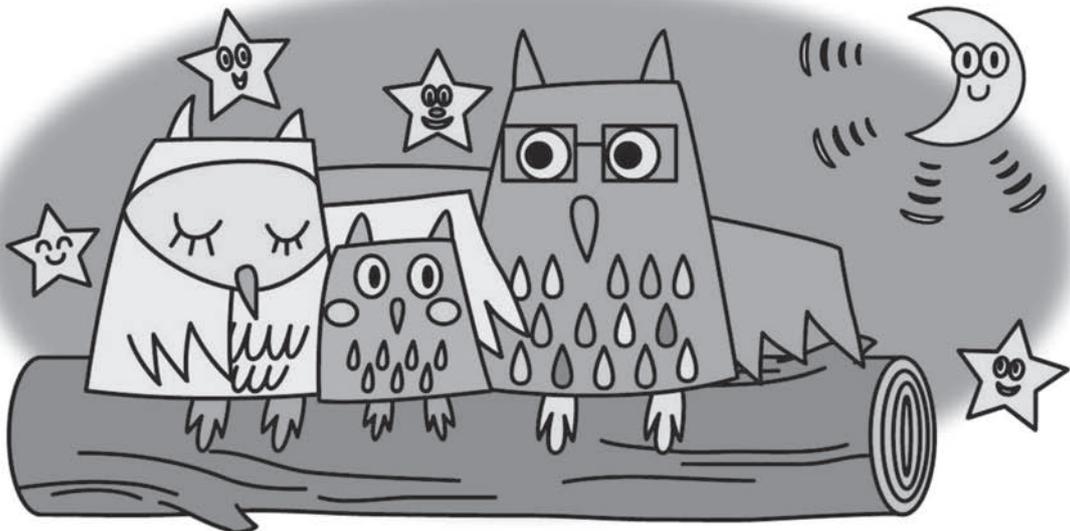
# 「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並びに優秀賞受賞者名簿

年度	最優秀賞 (北海道知事賞)		全国大会	優秀賞 (北海道教育委員会教育長賞・北海道PTA連合会長賞・北海道青少年育成協会会長賞 H22～)			
	学校名	氏名		学校名	氏名	学校名	氏名
S54	利尻町立脊形中学校	池原 広文	出場 総務長官賞				
S55	根室市立光洋中学校	小林 優美	出場				
S56	様似町立様似中学校	川上美穂子					
S57	初山別村立豊岬中学校	高橋 未央	出場				
S58	鹿追町立鹿追中学校	最上佐緒里					
S59	厚沢部町立厚沢部中学校	後藤 晃					
S60	和寒町立和寒中学校	高岡 智扇		札幌市立手稲東中学校	庄田 香織	更別村立更別中央中学校	西川 朋憲
S61	小平町立達布中学校	紅屋 優		美唄市立美唄中学校	堀川 卓郎	稚内市立稚内南中学校	山崎 直美
S62	鶴岡町立鶴岡中学校	伊藤 奈美	出場	音更町立音更中学校	佐々木詩津子	和寒町立和寒中学校	岡本 百里
S63	砂川市立豊沼中学校	小林ますみ		増毛町立増毛第二中学校	上坂奈緒美	更別村立更別中央中学校	竹川 暢
H01	江差町立江差中学校	中川 昌子		釧路市立鳥取西中学校	薄井 理砂	別海町立中西別中学校	臼井 貴之
H02	鹿追町立瓜幕中学校	高橋恵美子		旭川市立広陵中学校	三浦 愛子	初山別村立有明中学校	新田千佳子
H03	稚内市立稚内東中学校	森田 淳		中札内村立中札内中学校	中西 志香	美幌町立美幌中学校	飯島 紀子
H04	弟子屈町立弟子屈中学校	横川 心	出場 文部大臣賞	白老町立虎杖中学校	中村有希子	江別市立江北中学校	藤城 正興
H05	生田原町立生田原中学校	仁木利沙子		浦河町立浦河第一中学校	高田 牧生	別海町立中西別中学校	林 美穂
H06	生田原町立生田原中学校	前島 由衣	出場	旭川市立六合中学校	中村 沙織	余市町立西中学校	高山 仁美
H07	幕別町立糠内中学校	中村 郁洋	出場	標茶町立磯分内中学校	岡崎奈未子	札幌市立新陵中学校	出林 裕佳
H08	滝川市立明苑中学校	紺野友里子	出場	標茶町立磯分内中学校	藤本 智子	富良野市立山部中学校	寺井 正美
H09	中標津町立広陵中学校	谷口 麻衣		七飯町立大中山中学校	竹安 玄太	苫前町立古丹別中学校	中嶋 卓広
H10	本別町立勇足中学校	岡本あすか		札幌市立北都中学校	野原 梓	天塩町立啓徳中学校	大岩奈々恵
H11	根室市立柏陵中学校	分部 史織		江差町立江差中学校	柴田 優	中富良野町立中富良野中学校	杉原 咲
H12	稚内市立宗谷中学校	熊谷 慶子	出場	釧路市立北中学校	大井 里紗	北広島市立西部中学校	畠山 直子
H13	新冠町立新冠中学校	中村みなみ		虻田町立虻田中学校	佐々木千恵	猿払村立拓心中学校	藤井 美咲
H14	共和町立共和中学校	本間 絵美		釧路市立武佐中学校	佐藤くる美	恵山町立東光中学校	佐藤 亜未
H15	釧路市立美原中学校	佐藤 妃奈		岩見沢市立上幌向中学校	森谷 紀治	歌登町立志美宇丹中学校	渡辺のぞみ
H16	熊石町立熊石第二中学校	山脇 恭子		上富良野町立東中中学校	熊谷 佳苗	鶴居村立鶴居中学校	木村 友紀
H17	新十津川町立新十津川中学校	三吉 莉湖		歌登町立歌登中学校	金子 佳美	せたな町立大成中学校	正村 早紀
H18	北斗市立石別中学校	山田 亮一	出場	岩内町立岩内第一中学校	松山亜莉紗	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ
H19	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ		当別町立西当别中学校	萩原 有希	伊達市立長和中学校	本田 舞音
H20	岩内町立岩内第一中学校	熊野 遥華		幌延町立問寒別中学校	佐藤慎之介	池田町立池田中学校	新居 詩穂
H21	寿都町立寿都中学校	石王 凱騎		礼文町立香深中学校	中島佳奈子	千歳市立富丘中学校	中田 翔哉
H22	遠軽町立生田原中学校	阿部 愛		北海道教育大学付属釧路中学校	恒川 礼奈	増毛町立増毛中学校	加藤 修人
H23	別海町立中西別中学校	盛合 樹		帯広市立清川中学校	横山くるみ	釧路市立幣舞中学校	田名部あゆみ
				苫前町立古丹別中学校	永井 星奈		
H24	猿払村立拓心中学校	熊谷 春奈		栗山町立栗山中学校	濱谷 珠美	札幌市立月寒中学校	安田 りな
				厚岸町立真龍中学校	山田 唯		
H25	帯広市立川西中学校	畠山 優輝		遠別町立遠別中学校	丸山 美月	釧路市立鳥取西中学校	米内 貴志
				札幌市立平岡中央中学校	高野 大河		
H26	稚内市立稚内南中学校	熊谷 七海		江別市立江別第二中学校	最知なるみ	帯広市立帯広第五中学校	深町 陽奈
				釧路町立富原中学校	山岸 永和		
H27	北海道教育大学附属札幌中学校	前田ほの香		鷹栖町立鷹栖中学校	高木 倅凪	帯広市立川西中学校	西野 侑未
				千歳市立勇舞中学校	山田 萌未		
H28	白糠町立庶路中学校	松橋 愛美		苫小牧市立緑陵中学校	吉岡 美月	標津町立標津中学校	上田 礼芽
				豊富町立豊富中学校	伊藤 佑菜		
H29	白糠町立白糠中学校	阿部はるか		長沼町立長沼中学校	倉田 友美	旭川市立神居東中学校	若林 千夏
				芦別市立啓成中学校	渡部 胡桃		
				新ひだか町立静内第三中学校	坂本安侑子		

毎月  
第3  
日曜日

ほーんわか、ほーっとする日。

# 道民家庭の日



「道民家庭の日」イメージキャラクター『ほーほーくん』

## 家族みんなでふれあい、 団らんする日です

家族そろって食事をしたり、  
家族が団らんする機会を持つなど、  
家族の絆を育みましょう

※ノーゲームデー（毎月第1・第3日曜日）も実施されています。

## 家族ふれあい協賛店・ 施設を利用しよう

毎月第3日曜日に子どもを連れた  
家族が、料金の割引などのサービス  
を受けることができます。

※優待券（コピー可能）の提出が必要です。  
ホームページやフェイスブックから取得できます。

## 平成 29 年度「少年の主張」全道大会発表作品集

発行 公益財団法人北海道青少年育成協会

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル

TEL (011) 231-6451 FAX (011) 231-6457

URL <http://www.ikuseikyo.jp/> E-mail [youth@ikuseikyo.jp](mailto:youth@ikuseikyo.jp)



## — 青少年の心を育てるキャンペーン —

「子どもは、社会を映す鏡」。

そんな考え方に立つてみると、私たち大人から、  
先にしなければならないことがたくさんあります。

まず、大人自身が変わること。

そして、子どもたちを温かく見守り、支えあげること。

さあ、はじめましょう。

できることから、大人から